

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670300971
法人名	有限会社 なごみ福祉会
事業所名	グループホーム 青い鳥
訪問調査日	平成19年9月4日
評価確定日	平成19年10月4日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670300971
法人名	有限会社 なごみ福祉会
事業所名	グループホーム 青い鳥
所在地	鹿屋市古江町796番地1 (電 話) 0994-46-3056
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成 19年 9月 4日

【情報提供票より】(19年 8月 13日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和 ・ (平成) 18年 1月 5日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9人
職員数	9人 常勤 7人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.03人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000円	その他の経費(月額)	9,000円	
敷 金	有()円	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	150円	昼食	250円
	夕食	300円	おやつ	100円
	または1日当たり			円

(4)利用者の概要(8月 13日現在)

利用者人数	8名	男性	2名	女性	6名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低 74歳	最高 99歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	井ノ上病院 まつもと歯科
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの庭には畑があり、入居者の皆さんは昔の経験を活かして季節の野菜を育てて収穫し、食材として使用している。また漁港も近く、新鮮な魚で作ったお刺身や、自家製さつま揚げ等の料理を目の前にして食卓を囲むことは、この上ない楽しみの一つになっている。職員は一人ひとりの希望や思いを受け止め、職員間で協力しながらできる限り対応し、「一人ひとりが主人公」という理念の実現に向けて取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価における改善課題は無い。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価を自らの仕事の振り返りの機会ととらえ、全職員により自己評価を実施している。自己評価及び外部評価を通じ、見出された課題について全員で話し合い改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ご家族代表、地区民生委員、市及び包括支援センター担当者等、幅広い立場の人が参加し、2ヶ月毎に開催している。会議においてホームの取り組み内容や入居者の現状報告が行われると共に多くの意見が出されているが、評価への取り組み状況等の報告や話し合いは行われていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ご家族が意見や要望、不満、苦情を遠慮なく言える関係づくりに配慮している。また、直接言えない場合でも、行政機関その他の苦情受付機関に話せるように、重要事項説明書に連絡先を明示している。これまで苦情は無いが、意見や要望等の相談は度々あり、その都度職員で話し合い運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	お遊戯会や運動会、学習発表会等、地域の保育園や小学校の行事に招かれたり、近所の方がホームを訪れるなど地元の人々との交流が図られている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者を主体とした、ホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の職員会議において理念について話し合い、その思いを共有すると共に、日々の取り組みの中で実践できているかどうか確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	お遊戯会や運動会、学習発表会等、地域の保育園や小学校の行事に招かれたり、近所の方がホームを訪れるなど地元の人々との交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を自らの仕事の振り返りの機会ととらえ、全職員により自己評価を実施している。自己評価及び外部評価を通じ見出された課題について全員で話し合い改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族代表、地区民生委員、市及び包括支援センター担当者等、幅広い立場の人が参加し、2ヶ月毎に開催している。会議においてホームの取り組み内容や入居者の現状報告が行われると共に多くの意見が出されているが、評価への取り組み状況等の報告や話し合いは行われていない。	○	評価の効果を高めるためにも自己評価や外部評価の内容を報告し、取り組みや改善経過のモニターとして運営推進会議を活用することが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	入居者に関する個別案件や事故報告、書類の書き方等、市担当者を頻りに訪ねて相談しており、サービスの質の向上に向けて共に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の来訪時及び電話等により、入居者の状態や金銭管理の状況について毎月定期的に報告しているが、職員の異動に関しては、来訪したご家族への紹介のみで遠方のご家族への報告は行っていない。	○	ご家族の安心を確保する上でも、日頃入居者と共に生活している職員の異動に関しては、日頃ホームを訪れるご家族のみならず、遠方のご家族に対しても報告することが望ましい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が意見や要望、不満、苦情を遠慮なく言える関係づくりに配慮している。また、直接言えない場合でも、行政機関その他の苦情受付機関に話せるように重要事項説明書に連絡先を明示している。これまで苦情は無いが、意見や要望等の相談は度々あり、その都度職員で話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職が急なものとならないよう職員にも十分伝えている。過去の職員離職の際も、離職前に後任に来てもらい引継ぎを十分に行い入居者にも馴染んでいただくなど、入居者へのダメージを防ぐ配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加及びその後の報告など実施されているが、管理者等が中心であり職員の参加がやや少ない。また、研修体制が外部研修主体である。	○	職員それぞれの経験や業務の習熟度に合わせた研修計画やホーム独自で行う研修計画を作成し、それに基づき職員を育てる取り組みを実施することが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のグループホーム連絡協議会に入り、同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会に参加しているが、相互訪問等は実施していない。	○	他グループホームへの見学など相互訪問での具体的な事例を検討することで実践的な職員育成を実施するなど、お互いのサービスの質を向上させるような取り組みを検討していただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居後、ホームに馴染むまでのケアは十分配慮されているが、特異なケースではあるものの、ご家族からの相談後、即入居となられた方もおられ、本人が安心して納得した上で入居に至るプロセスが十分とは言えない。	○	個々に応じて、本人が安心して納得した上で入居に至るようなプロセスを検討していただきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者が、経験を活かして職員に料理の方法を教えたり、若い職員に対して食事づくりや仕事の大変さを気遣い、声をかけてくださるなど、ホームでの共同生活を通じて支え合う関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者ご本人やそのご家族に直接聞き意向の把握を行うと共に、日々の関わりの中からそれぞれの思いを推察するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成に当たり、入居者ご本人やそのご家族及び日々生活を共にする職員と話し合いを行っている。定期的な墓参りやご家族への電話など、入居者の希望や思いを具体的に掲げるなど、入居者主体の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎に介護計画の見直しを行うと共に、病状や体調、状態の変化など新たな課題やニーズに対し、入居者ご本人やそのご家族及び日々生活を共にする職員と話し合い、必要に応じて計画の変更を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医や協力医療機関との連携により、定期的な外来受診を含め医療処置を受けながらのホームでの生活の継続を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者ご本人及びそのご家族が希望するかかりつけ医による、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームには看護職が居ないため、入居の際にご家族と医療対応が必要になった場合の話し合いを実施し、「緊急時における誓約書」を個々の状況に応じて作成し同意を得ている。また、状態の変化に応じ、その都度話し合いを行い、その内容について職員間で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の記録等の個人情報については、事務所にて保管し適切な取り扱いを行っているが、食事時の会話の中で、入居者の認知症の状態に関する話が出るなど、プライバシーに関して配慮に欠ける部分が見られる。	○	一人ひとりの誇りを尊重し、プライバシーの確保を徹底していくことは、入居者の尊厳と権利を守るための基本であり必須の事項である。職員が何気なく使っている言葉遣いや会話の内容等、入居者の尊厳を傷つけたりプライバシーを損ねるものになっていないか、日常的な確認と改善に向けた取り組みが望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、帰宅願望の強い入居者を昼食時間にドライブに連れ出し対応するなど、入居者の希望やペースを大切に支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえなど、できることは入居者と一緒に行っている。食事には地元ならではの新鮮な魚や懐かしい食材をできるだけ使い、入居者と職員と一緒に楽しく食卓を囲めるよう配慮している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には午後からの入浴とし、その日により順番を変えるなど入浴を楽しめるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居前のご本人の生活歴を重視し、祥月命日のお寺、お墓参りやご家族への電話などを介護計画の中に組み込み、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩やドライブ、いちご狩り、花見など季節に応じた行事等により、ホームの中だけで過ごさないように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を全員が十分理解している。日中玄関に鍵をかけることはなく、外出傾向や帰宅願望の強い入居者に対し見守りを徹底し、一緒に散歩したり外出することで対応している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災を想定した避難訓練を毎月実施し、入居者が安全確実に避難できる方法を身につけるよう努めている。また、災害発生時には隣接する法人代表社宅を中心に、近隣の住民の方にも協力要請を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量については個別に記録し把握しているが、水分摂取量については大まかに把握はしているが記録はとられていない。栄養バランスに関しては、地元の食材をふんだんに使い配慮しているが、栄養士等の専門職によるチェックは受けていない。	○	水分不足を防ぐためにも個々の摂取状況を記録にとり、職員がその情報を共有し対応することが望まれる。また、栄養バランスに関しても、定期的に栄養士等の専門職に献立の内容をチェックしてもらい、必要に応じて助言を受けられるよう検討していただきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が、思い思いの時間を過ごせるようにソファを配置している。また、毎月手作りのカレンダーをつくり、目につくところに飾るなど、季節感を取り入れた工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族や職員とで話し合い、使い慣れた家具や品物(仏壇等)を持ち込むなど、本人が安心して過ごせるように工夫している。		